

Interview
**Before
After**

vol.01

機能性と働きやすさを 追求した新社屋で次の百年へ。

創業から一世紀
先人の志を忘れずに



株式会社 武田商事

本社／佐世保市沖新町7-2 TEL：0956-31-6285

1914年、佐世保で創業。地域産業界や医療機関、各分野への高圧ガスの販売、機械・溶断機材をはじめ様々な商品を取り扱う地域密着型の総合商社。





株式会社 武田商事

代表取締役社長 ^{やま さき とし たか} 山崎 俊隆氏

1953年、佐賀県武雄市出身。
1987年、株式会社武田商事に入社。
2010年、代表取締役社長に就任。

地の利と先端技術を活かし 個人商店から法人組織へ

当社の創業は1914年で、大正時代に入って3年目の年です。海軍直営の軍需工場である海軍工廠が佐世保にあったことから、船の解体に携わる業者として始めた高圧ガスおよび溶接材料販売が事業の原点でした。当初は、創業者の姓名を冠した「武田了商店」を名乗っており、創業後まもなく酸素販売の許可も取得しています。

海外から入ってきたガスによる金属切断技術を当地でいち早く取り入れ、ガス溶接技術も習得し、周囲にその技術を広め地域貢献にも力を入れていたようです。戦後の1950年に有限会社へと法人化。1955年には高圧ガス販売優良事業者として長崎県知事より表彰され、その6年後に通商産業大臣からも表彰を受けています。

1970年に有限会社武田商事、翌71年に株式会社武田商事へと称号を変更したあたりから、大手造船会社との取引が増え、国の重厚長大産業の一翼を担う当地域とともに、会社はさらなる発展を遂げ、県内各地に次々と

営業所やガス製造（充てん）拠点を増やすことになりました。

創業地の佐世保市上京町から社屋が大和町へ移されたのは1965年で、そこから半世紀以上、旧社屋が使われることとなりました。私が四代目の代表取締役に就いて11年目を迎えました。先代社長のころから本社社屋建て直しの話は持ち上がっていました。当初は、社屋の場所を移さず、建物を取り壊して建て替える計画でした。しかしながら、建て替え期間中の仮社屋を調達する必要がある、建て替えの工期は更地に新築する場合より長くなる、といったデメリットが生じるため、新たな場所に社屋を新築する計画へと変更したのです。



日本社社屋（佐世保市大和町）

新社屋プロジェクトに現れた 頼りになる存在

新社屋の建設地探しには、4年ほど費やしました。なかなか思うような候補地が見つからず、以前にガソリン備蓄タンクが設置されていた土地がようやく見つかり、入札の末に取得することができました。

しかし、新社屋建設プロジェクトにおける困難は、そこから先のほうが大きいことにご気がつきました。建築の素人である我々が、思い描く社屋をどのように大手ゼネコンに伝えながら、うまく形にしていけるか、その進め方に戸惑ったからです。そんな時、メインバンクの親和銀行からFFGBビジネスコンサルティング（以下、FFGBC）の不動産ソリューション部を紹介され、プロジェクトに

関わっていただく運びとなりました。

ゼネコンとの打ち合わせには最初の段階から入っていただき、いわゆる仲介役を務めていただきました。我々は建築に関する知識があまりない分、例えば、室内のレイアウトひとつをとっても、細かなところまで考えが行き届きません。FFGBCは、我々の知識不足から生まれそうになる課題を見逃さず、社員の間線や空気の流れなど、あらゆる専門的観点からアドバイスを与えてくださり、そのたびにその存在の心強さを実感したものです。

また、建設費を抑えるという意味でも少なからず貢献していただき、それもお願ひしてよかったと思える点でした。限られた予算のなかでは当初のプランを変更せざるをえない場合がありますが、そうした場合は、除外しても機能上は問題のない部分を挙げての提案で助けていただきました。ゼネコンとの直接のやりとりだけで進めていたなら、建設コストの削減につながるような提案は、もしかしたら受けられなかったかもしれません。さらに言えば、FFGBCの協力的な姿勢には、本年4月に本社社屋移転を実現できなかったでしょう。



山崎俊隆社長

新社屋はES向上が狙い

新社屋のプランに関して、私のほうから、社員の働きやすさと満足度向上（ES）のために大きく3点の願いをしました。まず、全部署をワンフロアにまとめて、部署間の垣根を取り払った造りにすること。さらには、会議室のほかに、食堂や打ち合わせスペース、エントランスなど、社員間あるいは社内外のコミュニケーションがとりやすい雰囲気のある場を設けるようリクエストしました。

二つめは、取り扱い商材を保管する倉庫をオフィスに隣接させること。旧社屋では社員のいるオフィスと倉庫の行き来が不自由でしたので、社員の移動効率を改善したいと考えていました。また、搬送用大型車両を倉庫入り口まで寄せられる設計にさせていただき、搬入の効率もアップさせました。

三つめは、社員の意識向上のための工夫です。エントランスに当社の沿革を表す年表と、当社施設や歴代社長の写真を掲示するスペースを設置。当社を訪れた社外の方に当社を知っていただく目的とともに、旧社屋や当社の歴史を知らない、今後を担う若手社員の教

育の意味も込めています。

社員の意識向上という点では、新社屋への移転を機に、社長、幹部役員も含めた全員での清掃時間を設けました。新しい職場をきれいに保ちたいという意識がきっかけとなり、経営者や上司が若手社員と目線を揃える機会が増えたわけですが、お互いを思い支え合う協調性の醸成が促されればと考えています。



部署間の垣根をなくしたフロア



広々とした倉庫



フロア内のコミュニケーションスペース



社員全員が集える休憩・食事のスペース

オフィスに仏間がある意味

新社屋のレイアウトに関してもう一つ、私のほうからちょっと風変わりなお願いをしました。それは、建物の一角に和室の「仏間」をしつらえることです。当社の場合、先代社長の三代目までは創業家の一族で、創業者とその息女にあたる姉妹が経営を担ってききました。関係性の近い親族が周りにいないという事情もあって、仏壇を当社に置く決断を下しましたが、社内的には「職場にはふさわしくないのでは」との意見も当然ありました。しかしながら、あまり前例がないであろうリクエストに対し、FFGBCとゼネコンの連携は、少し奥まった場所に仏間を配置する解決案を導き出し、オフィスの建物に違和感なく和室を組み込むことができました。新社屋への移転を果たした今では、当社の歴史を一世紀近くにわたって積み上げてきた先人たちを敬い、その志を忘れないようにする場を得られてよかったです、考えています。

造船関連からスタートした当社の事業は、時代の変遷に伴って自動車や航空関連などの重工業にも進出し、今や高圧ガスの用途は、

食品製造、医療、精密機器など、ありとあらゆる分野に広がっています。完成したばかりの新社屋を足掛かりに次の百年を見せる覚悟で事業に取り組んでまいります。



オフィス内に仏間を設け先人を敬う

今回の社屋新設を振り返って

こだわりは？

建物の使い勝手の面では、いくつかのご要望をいただきました。「社員間のコミュニケーションを促進したい」というご要望に対しては、仕切りを設けない広いフロアにデスクを配置したので空間的には余裕が生まれ、結果的には社員間のソーシャルディスタンスも確保しやすくなっています。打ち合わせおよび休憩の場所は場所ごとに趣を変え、気分に応じて居心地のよさを求められるオフィスにできました。

エントランスは「会社の顔」ですから、採光を重視して明るさを演出。企業の歴史を紹介する場と、対外的な商談を行えるスペースの二つの機能を両立させています。

オフィスと倉庫を隣接させるご要望に対しては、倉庫については広い敷地を最大限に活用して、旧社屋の3倍ほどの面積を割り当てています。搬入用車両を直付けできる場も設け、搬出入口には庇を設置して雨天時の作業がしやすい場にしています。

今回のまとめ

社員が働きやすく、しかも自然と意識向上につながるオフィスを目指して、設計段階から武田商事様、建設会社と打ち合わせを重ね、その回数は約40回におよびました。当社が仲介役を担う形で新社屋プロジェクトを進めた結果、細部に関しては建設コストの見直しにもつながり、山崎社長からは「建設費のほかにコンサルティング料を予算に計上しても、御社に入ってもらったおかげでコストカットまでできたので、対価以上のパフォーマンスをしていただいたと感じている」と、言っていました。

また、「仏間を設けたい」という珍しいご要望では、社長のお人柄とお気持ちに答えようと誠意ある対応を心がけた結果、やはり喜んでいただけ、私たちもやりがいを実感できました。「新社屋移転によって働く環境を一新する行動は、社員の意識を変え、会社のルールや取り組みを改善するきっかけにつながる。貴重な経験になった」と述べられた言葉も印象的でした。

Interview



今回の担当

FFG ビジネスコンサルティング
不動産ソリューション部

副部長 **大隈 剛**

1983年 大手建築設計事務所入社
研究施設、集合住宅、オフィス等の
建築設計・監理を担当

1998年 同九州支店長就任 福岡
銀行、親和銀行の店舗、福利厚生
施設や公共施設、商業施設、まち
づくり等に従事

2016年 FFGビジネスコンサル
ティング入社 現在、不動産有効活
用提案や建設計画支援等に従事

FFGBC が提供する不動産ソリューションメニュー

- ・プランニング、マーケット調査、事業性検討を含めた不動産開発計画をサポート
- ・設計会社、施工会社選定などのプロジェクト実行支援
- ・建物の用途やテナントの見直し、建物診断等を行い、不動産のバリューアップをサポート
- ・保有資産の入替え・処分等の妥当性を検討し、ポートフォリオの最適化を提案

お問い合わせ

株式会社 FFG ビジネスコンサルティング 不動産ソリューション部
福岡市中央区大手門一丁目8番3号FFG本社ビル
TEL. 092-723-2372

不動産鑑定士や一級建築士等の資格を保有し、豊富な経験を持つスタッフが、貴社が抱える様々なニーズにご対応します。

(右写真)不動産ソリューション部 企画
コンサルティンググループメンバー(左
から田竜主任調査役、大隈副部長、小
谷主任調査役)

